

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大谷口小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	・国語、算数において目標を達成することができた。しかし、理解が十分でない児童への支援を継続して努める必要がある。理解度に応じた支援を適切に行うために、指導方法の工夫改善、教材教具の工夫に取り組んでいく必要がある。ドリルパーク、スタディサプリなどのICT教材も併用し、児童の知識・技能の習熟を図る。
思考・判断・表現	・学校課題研修の視点として「言語活動の充実」と「ICTの活用」を挙げて取り組んできた。話し合い活動における意識調査の肯定的な回答の割合は目標を達成することができたが、実際のコミュニケーション能力はまだ不十分であると考えられる。「言語活動の充実」を柱とした授業づくりを継続し、各教科等での児童の思考・判断・表現する力を引き続き高めていく。
主体的に学習に取り組む態度	・「国語科/算数科/社会科がすき」といった項目は国語、算数において良好な結果、社会科が僅かながら減少していた。主体的に学びに向かう意識が高まるよう、体験的な活動を取り入れ、学習環境の充実を図ることで、学ぶことの楽しさをさらに味わうことのできる授業づくりに努めていく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	国語、算数における2学期末の自校テストにおいて【知識・技能】の理解度を80%以上とする。(全学年) さいたま市学習状況調査において、「国語/算数の授業の内容はよくわかりますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上とし、否定的な回答の割合を10%以下にする。(3年生以上)	⇒ 「ドリルパーク」、「スタディ・サプリ」等のICT教材と、教科書やワークなどの教材を併用し、基礎的・基本的な内容の習熟に取り組む。家庭との連携を図り、家庭学習の充実を努める。学校課題研修で、言語活動の充実、ICTを基盤にした個別最適な学び、協働的な学びの推進に努める。
思考・判断・表現	さいたま市学習状況調査において、「話し合う活動では、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていく」という質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ 授業の中で、ペア活動やグループ活動を積極的に取り入れ、話す場を多く設けることで表現力を高める。
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査において【学びに向かう力等】における「国語/社会/算数の勉強は好きですか」の質問項目において、肯定的な回答の割合をR4年度の自校の結果よりも3pt向上させる。	⇒ 国語、算数、社会を中心とした授業研究会を実施し、授業力を高めることで、学習に対して主体的に取り組めるようにする。デジタル教科書や協働学習用ソフトの効果的な活用を中心とした教師の授業力の向上を図る。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	国語、算数における2学期末までの自校テストにおいて【知識・技能】の理解度は、国語84.4%、算数85.0%(平均値)だった。「国語/算数の授業の内容はよくわかりますか」の項目における肯定的な回答は、国語92.9%、算数90.1%、否定的な回答は両科目とも10%以下であった。	A
思考・判断・表現	さいたま市学習状況調査において、「話し合う活動では、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていく」という質問項目において、肯定的な回答の割合が89.6%であった。言語活動の充実を目指した授業研究会を3回開催し、児童のコミュニケーション能力の向上に努めた。	A
主体的に学習に取り組む態度	ICTの活用や言語活動に視点を当てた授業研究会を3回開催し、指導方法の工夫改善に努めた。市学習状況調査の【学びに向かう力等】における「国語/社会/算数の勉強は好きですか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は、R4年度の自校の結果に比べ、国語+4.2pt、算数+5.0pt、社会-4.3ptだった。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	国語の知識・技能は全国平均とほぼ同等であった。「漢字の使い方」については概ね全国平均レベルに達しているが、「文章の特徴を選ぶ」問題の正答率が低かった。算数は知識・技能全体において全国平均を下回った。図形領域では全国平均を上回った。特に数と計算領域に課題がみられたので、理解が十分でない箇所を補充する学習を進める。
思考・判断・表現	思考・判断・表現全体において国語、算数とも全国平均を下回った。国語の話すこと・聞くことは全国平均レベルであるが、書くこと・読むことが平均を下回った。算数では、特に数と計算の領域に課題が見られた。思考・表現に関する質問項目として「自分の考えをまとめる活動を行っていた」「話し合い活動を通して自分の考えを深め広げることができている」に対し、肯定的な回答の割合が高かった。
主体的に学習に取り組む態度	主体的に学習に取り組む態度において、「国語/算数の勉強が好きか」の質問に対し、肯定的な回答がR4年度の自校の結果と比較し割合が高かった。また「課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んだか」もR4年度を上回った。これらの結果から課題解決に主体的に取り組む態度は伸びつつある。今後も児童の興味・関心を高める体験活動を取り入れる等、指導方法の工夫改善に努めたい。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	国語、算数とも「思考・判断・表現」が市平均を大きく上回り、特に国語の「書くこと」「読むこと」において良好な結果がみられた。一方、算数の「図形」領域については、課題がみられた。国語、算数とも、「学びに向かう力、意欲」に関する回答は、市平均より良好な結果がみられた。	小4	国語、算数とも「思考・判断・表現」に課題がみられる。また、「学びに向かう力、意欲」に対する回答の肯定的な回答が、両教科とも市平均を僅かに下回った点も課題である。学習への積極性を高めていく手立てが必要である。国語の「書くこと」「言語文化に関する事項」は良好な結果を得られた。
小5	社会科は「知識・技能」「思考・判断・表現」とも良好な結果を得たが、理科は特に「知識・技能」に課題がみられた。授業理解に対する肯定的な回答は、概ね良好な様子が見られる。「学びに向かう力」は国語と社会の学習意欲が高い一方、算数、理科では、市平均をやや下回るなど、課題がみられた。	小6	授業理解に対する肯定的な回答は、概ね良好な様子が見られたが、算数の「知識・技能」「思考・判断・表現」や理科の「知識・技能」、国語の「読むこと」において課題がみられた。どの教科も「学びに向かう力、意欲」に関する回答は、肯定的な回答の割合が市平均より良好で、意欲的な様子はみられた。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)			
	目標		策
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒	変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし